

1 5 教育条件確立の運動 分科会報告

共同研究者 栗野 正紀（北海道教育大学札幌校）

1 はじめに

本年の分科会は、ZOOM ミーティングのブレイクアウト機能を使って実施した。レポート数は1本、参加者も半日で2名（共同研究者・司会者除く）と少なかつたため、討議時間が十分に確保でき、その点では充実した分科会となった。分科会運営担当者も議論に参加する場面もあり、広くさまざまな立場の方が参加する合研のあり方にも沿ったものとなった。

今年度も、分科会研究課題（1）国と地方の教育予算の問題点と子ども・教育への影響、（2）教育費無償化、ゆきとどいた教育を求める運動の進め方を討議の柱として、レポートされた個別の課題についての議論を行った。

2 報告と討論の概要

（1）報告者 公立小学校 匿名 「予算要望について」

レポート非公開希望のため例年であれば内容割愛となるが、今年は HP や各組織の新聞のみへの掲載となるので、匿名性に留意し簡単に報告する。

本報告は、報告者の勤務校における近年の予算要望の概要を説明しながら、成果や課題に触れ、改善策に関して交流することを目ざすものであった。

勤務校では学校評価による保護者からの声や、子どもアンケートによる子どもからの要望を教育委員会に示しながら、トイレの改修や児童用机・椅子の更新を1学年分ずつ行ってきた成果が説明された。

その一方で、学校の要望をまとめ上げる過程で教員からの要望が少なく、その吸い上げのシステム作りといった課題も指摘された。これに対して、教員は、この物品が消耗品なのかどうかも不明なことが多く要望しにくい。請求しても届くのが次年度といったことになると、担当学年が変わり使用できないといった実情があることが、教員の参加者より紹介された。

また、事務職員の参加者からは、教員にホワイト・ボードやエクセル・ファイルへその都度必要な物品を記入してもらい、事務職員がこまめに情報を収集するといった実践報告がなされた。

概して自治体予算が限られる中、どうしても切羽詰まっているものからしか予算がつかないというのが実情のようである。学校間で貸し借りが可能な物品（健康診断時に使う大

きな体重計、ポリッシャー)等は、貸し借りで運用していくといった提案もなされた。

今年度も様々な実践知を共有でき、また明日からの職場での取り組みにつなげようという気持ちになる実り多い分科会であったと思う。